

令和3年度版

提案型協働事業 活動報告



狭山市

◎協働～地域課題の解決のために～

近年、人口の減少や急速な少子高齢化の進行や経済状況の悪化などの影響により、地域の活力が失われつつあり、様々な地域課題を解決するための取り組みがより一層求められています。

そのような中で、本市では、平成31年4月に「狭山市協働によるまちづくり条例」を施行し、「自分たちのまちを、自分たちでつくる」を合言葉に、心豊かで活力に満ちた地域社会の実現目指して、市民と市との協働によるまちづくりを推進しています。

また、まちづくりを担う人材の育成と学びの成果を地域社会の中で、活かす仕組みづくりを目的に、「さやま市民大学」を市民とともに運営し、地域課題の解決に取り組む人材の育成を進めています。

これにより、市が実施している公共サービスに、市民の皆さんや市民活動団体などが主体的に参加し、市民と市が目的を共有しながら連携することができ、より効果的な公共サービスを実現することを目指しています。

◎提案型協働事業について

市では、協働を推進する1つの手法として、「協働事業提案制度」を実施しています。「協働事業提案制度」とは、市民のニーズに合った公共サービスの提供を目指し、市民活動団体などが提案した事業に対し、市が必要な情報提供、情報発信及び経費等の支援を行うことで、市民活動団体などと協働で事業を実施する制度のことで、次の2つの事業があります。

①市民提案型協働事業

市民が日頃感じている地域課題や公共的な課題をテーマとした、自由な発想による協働事業

②行政提案型協働事業

市が抱えている課題の中で協働事業に相応しいテーマを市が提案し、パートナーを募集する協働事業

この活動報告では、令和3年度提案型協働事業8事業（市民提案型事業、行政提案型事業）による活動の様子を掲載しています。

ぜひ、活動の参考として、「わたしたちにもできそう!」、「わたしたちもこの制度を活用してみよう!」など新たな気づきを発見してみてください。

目次

【令和3年度活動報告】

令和3年度提案型協働事業一覧	3
----------------	---

①市民提案型協働事業

【事業1】 犯罪被害者等支援事業	4
【事業2】 障害のある人もない人も楽しめるビリヤード教室	5
【事業3】 ふるさと狭山の遺産「広瀬斜子織の普及啓発と復元」	6
【事業4】 見えない違いに目を向ける「まちづくり」 in SAYAMA	7
【事業5】 道にお絵かき！？大っきなところに描いてみよう♪ ～コロナなんかには負けないぞ！～	8

②行政提案型協働事業

【事業6】 狭山市版食のセーフティネットの仕組みづくり	9
【事業7】 シンサヤマミュージーラル事業	10
【事業8】 障がいのある方が教える「ポッチャ教室」	11

【参考資料】

協働事業提案制度（提案型協働事業）年間スケジュール	12
協働事業チェックシート	14
みんなでつながろう@さやま	15
過去3年分の提案型協働事業一覧	16

◎令和3年度提案型協働事業一覧

①市民提案型協働事業

No	事業名	団体名	担当課
1	犯罪被害者等支援の会	犯罪被害者・交通被害者等支援の会	交通防犯課
2	障がいのある人もない人も楽しめる ビリヤード教室	さやまビリヤード 愛好会	障害者福祉課
3	ふるさと狭山の遺産 「広瀬斜子織の普及啓発と復元」	狭山遊糸会	社会教育課
4	見えない違いに目を向ける「まちづくり」 in SAYAMA	MA-ZIRY	人権推進室 (政策企画課) 男女共同参画 センター (市民文化課)
5	道にお絵かき!?大っきなところに描いてみ よう♪ ～コロナなんかには負けないぞ!～	Sayama Second Stage	協働自治推進課

②行政提案協働事業

No	事業名	団体名	担当課
1	狭山市版食のセーフティネットの 仕組みづくり	フードバンクさやま	福祉政策課
2	シンサヤマミュージーラル事業	新狭山北口 商店会	商業観光課
3	障がいのある方が教える「ポッチャ教室」	社会福祉法人茶の花 福祉会	障害者福祉課

※各事業のページは、事業を実施した市民活動団体が作成しました。

【事業1】

事業名：犯罪被害者等支援事業

団体名：犯罪被害者・交通被害者等支援の会

連絡先：連絡者氏名 佐藤 咲子 TEL：04-2957-0846

携帯：090-8331-8935

メール：sakukosatou@yahoo.co.jp

【事業の目的・ねらい】

- ・犯罪被害者及び交通被害者、その家族等の支援を行うことで被害者の心の傷、精神状態が少しでも回復されることを目的とする。

【活動内容】

1. 犯罪被害者及び交通被害者の発信、傾聴
2. 公に顔、声を出せぬ被害者の相談（自助グループ）
3. 被害者支援のための方策を学ぶセミナー開催

【事業の成果】

- ・令和3年11月1日～3日 広瀬公民館で文化祭に参加し、被害者支援活動状況を展示した。
- ・令和4年2月14日～17日 市役所F1 エントランスホールで一般市民の方々25名「最後のひと言」展の参加を頂いた。
- ・ボランティア活動参加の始めとして埼玉経済高等学校での打ち合わせ、武蔵野学院大学では4月より「命の大切者を学ぶ教室」の講話導入

【事業の課題】

- ・ボランティアの方々も高齢化しているため、大学生、高校生に参加していただくようにする。
- ・狭山市の補助事業が終了し、活動資金の確保が難しい。

【今後の事業展望】

- ・令和4年度からは、愛知県の企業から活動支援を受け、今後も引き続き被害者支援活動を行っていく。

【団体のPR】

- ・狭山ケーブルテレビ局等メディアの力を頂きたい。
- ・市の方からも市民の方々に協力を呼び掛けてほしい。
- ・「オリーブ」では、犯罪被害者の置かれている現状と心情を知っていただき、支援について一緒に考え、活動していく仲間を募集しています。参加お待ちしております！

【事業2】

事業名：障害のある人もない人も楽しめるビリヤード教室

団体名：さやまビリヤード愛好会

連絡先：連絡者氏名 会長 長谷川 秀夫 TEL：04-2959-8471

メール：hasegawa@p1.s-cat.ne.jp

ホームページ：https://sayamaba.jimdofree.com/



【事業の目的・ねらい】

- 健康維持は大きな社会貢献である基本理念の基、障害のある人とない人との共生、そして老若男女が楽しみ競い合えるバリアフリー、リハビリ、生涯スポーツであるビリヤードを通じた交流の場を提供することを目的とする。

【活動内容】

- 障害のある人及び同伴者優先のビリヤード体験講座（4日間に分散開催）
第1～4回 参加者：40名 [受講者15名（内4名女性）+支援・指導者25名]
- ビリヤード教室（予定全10回：7回をもって終了）
 - 受講者数：8名 年齢構成：69～84歳(平均75歳)
 - 支援、指導者延べ総数45名



【事業の成果】

- ビリヤードは障害の有無・老若男女が競い合え、楽しむ交流の場となることを確認。
- 地域活動として進展させる基盤を構築した。

【事業の課題】

- ビリヤードは、設備及び場所が必要であることから、企業からの人的・物質的支援が必要である。地域活動として進展させるために会員数及び活動の場所を順次拡大する必要がある。

【今後の事業展望】

- 一過性のイベントで終わることなく、ビリヤードを通じて持続可能な体制で全ての人に身体的、精神的、社会的健康と福祉を目指した住み続けられるまちづくりに展開する。

【団体のPR】

- ビリヤードに係る会員相互の練習と研鑽を通じて、新たにビリヤードを始めようとする方々（初心者）に指導も行えるよう、その技術の研鑽に努める中で地域住民の交流の場を提供し、さらには健康の維持・増進の一助とすることにより、地域社会の発展に寄与する。

【事業3】

事業名：ふるさと狭山の遺産「広瀬斜子織の普及啓発と復元」

団体名：狭山遊糸会

連絡先：連絡者氏名 野本 照子 TEL：080-3407-3248

メール：t-nomoto@krc.biglobe.ne.jp

【事業の目的・ねらい】

- ・狭山の文化遺産「広瀬斜子織」を広く市民に知ってもらうことで郷土愛の醸成を図る。
- ・現在ではほとんど残されていない織り機の整備や技術の習得、情報の収集により、「広瀬斜子織」の再現を目指す。

【活動内容】

◎市民を対象にした普及啓発活動

- ・広瀬斜子サロンの開催、織り体験講座の開催
- ・文化祭における企画展示

◎インターネットを利用した情報発信・収集

- ・ホームページ、ブログ、Youtube 紙芝居

◎技術向上と復元織りの準備

- ・精練、整経、糸綜紉作り、綜紉通し、箆通し、試し織り等

【事業の成果】

- ・狭山市文化団体連合会主催の青少年文化体験フェスタを南小学校で開催。16名の児童が、各々のペースでコースターなどを織り上げ、物を造ることの楽しさを体験した。
- ・ホームページ作成、紙芝居作成などネット活用によりコロナ禍においても、広瀬斜子織の存在を知ってもらうことが出来た。
- ・広瀬斜子織の再現に目処が付いたことは大きな進歩であった。

【事業の課題】

- ・「子供中心にした織物体験」と「広瀬斜子織の再現作業」の2つの分野が中心の活動であるが、どちらも活動場所の確保（現在は広瀬公民館）が最重要課題である。

【今後の事業展望】

- ・コロナの状況により、織物体験等の対面活動にオンラインでの活動を取り入れながら、郷土愛の醸成を図る。
- ・令和4年度中に広瀬斜子織再現発表会の実施に向けて、技術や知識を習得・整理する。

【団体のPR】

- ・狭山遊糸会は広瀬斜子織を再現し、それを未来に引き継ぐ夢を持っています。そのためには、「参加したい、資料を提供したい、連携したい、協力したい」などの気持ちを持つ方を探しています。興味ある方は、ぜひご連絡ください。お待ちしております。



【事業4】

事業名：見えない違いに目を向ける「まちづくり」 in SAYAMA

団体名：MA-ZIRY

連絡先：連絡者氏名 澤田 真依 TEL：070-8425-8009

メール：maziry.ds@gmail.com

【事業の目的・ねらい】

- ・性的マイノリティ（LGBTQ等）に関する、配慮意識の醸成が浸透することにより、誰もが安心して、地域で自分らしく暮らせる「まちづくり」が実現できる。
- ・性的マイノリティ（LGBTQ等）に限らず全ての人々がエンパワーメントを発揮できる環境作りに貢献出来る。
- ・日本でダイバーシティというと、女性にフォーカスされがちですが、男女差、外国人、障害者、高齢者等といった目に見える違いだけでなく、目に見えない「違い」にも目を向けることで、より多様性を受け入れる基盤作りに繋がっていく。

【活動内容】

- ・性的マイノリティに関する啓発リーフレット作成
- ・ZOOMによる「多様性を認め合う街づくりについて考えるミニ講演会」
- ・「多様な性を認め合う街づくりについて」意見交換会

【事業の成果】

(1)啓発リーフレット

- ・狭山市初の啓発リーフレット作成
- ・パートナーシップ宣誓制度導入前に広範囲に配布できた
- ・狭山市役所の新人研修で配布された



(2)ミニ講演会

- ・講演内容が分かりやすかった、今後の事業にも参加したい、という意見が多数あった
- ・共に活動したい、という意見があった
- ・市民団体活動に知識を役立てたい、という意見があった
- ・講演会には幅広い年齢層の方に参加していただけた

(3)意見交換会

- ・市民の方の考えや思いを聞くことができ、今後の活動に反映できる

【事業の課題】

- ・未だ認知度、関心を持っている人が少ないことを実感した
- ・正しく理解されていないことを実感した

【今後の事業展望】

- ・「多様な性を認め合う街づくり」の一助となる活動を推進する

【団体のPR】

- ・国籍や年齢・性の違い・障がいの有無などにかかわらず「自分の住んでいる街」、「大切な出身地」を誰もが過ごしやすい場所にしたいと考え、福祉・教育の資格を持ち従事している有志が集まり、福祉・教育の各分野から総合的に支援することを目的として立ち上げた団体です。

【事業5】

事業名：道にお絵かき!?大っきなところに描いてみよう♪

～コロナなんかには負けないぞ!～

団体名：Sayama Second Stage (通称 3S スリーエス)

連絡先：連絡者氏名 北村 京子 TEL：090-6930-9010

メール：kitachan-4@kcf.biglobe.ne.jp

【事業の目的・ねらい】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による先の見えない閉塞感を解消するとともに、市民の「コロナに負けない!」という意識の醸成を図るため、ダストレスチョークを用いた親子参加型のお絵かきイベントを狭山市駅西口市民広場にて開催する。
対 象：3歳～小学校6年生までの子どもとその保護者
募集組数：第1部、第2部ともに15組まで 感染症対策を行った上密集を避けて配置する。
- ・子どもが元気に絵を描く様子を見て、子どもから保護者や市民が元気をもらえるような効果ができる。



【活動内容】

- 令和3年4月・第1回打合せ（事業内容、チラシの内容等を協議）
9月・緊急事態宣言発令により、第2回打合せを中止する。
9月・事業開催の可否について協働自治推進課と意見交換を行う。その結果、開催に向かうことになる。
10月・第3回打合せ（チラシについて、作品の掲載方法等を協議）、打合せ後会場を確認する。
・チラシ案決定。チラシ、ポスター印刷発注を行う。
・会場内の汚れが酷い箇所の洗浄を行う。
11月・第4回打合せ（開催日の進行、役割分担、感染症対策等を協議）
・開催前日準備（配置図から会場を区分けしてテープ貼付、確認作業）を行う。
・21日開催当日結果 参加家族数30組、参加者人数86名
12月・ふりかえり（継続したいこと、課題、新しい展開について等）

【事業の成果】

- ・オリジナルキャラクターをデザインして、「コロナに負けない」意識を伝える。
- ・子ども達がダストレスチョークで、楽しそうに笑いながら絵を描く姿から、コロナ禍でストレスを感じている気持ちを開放する様子が、子ども達だけでなく保護者や市民にも見られる。
- ・後日、イベント開催の様子を狭山市公式 YouTube にて公開される。

【事業の課題】

- ・開催当日にキャンセルが出た場合の受付対応について決めておく。
- ・イベント開催時の SNS 利用方法について確認する。

【今後の事業展望】

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を見極めた上で開催を検討していく。
- ・参加者の多様性も考慮し、子育て団体との連携も検討する。

【団体のPR】

- ・3S（スリーエス）は、地域デビューの第一歩に繋がる「つな×つな さやま」という市民対話の「聴き合いの場」を提供して、定期開催をしています。
- ・新型コロナウイルスの流行により、「場」の提供は困難となりましたが、収束後に共に活動する運営メンバーを募集しています。

【事業6】

事業名：狭山市版食のセーフティネットのしくみづくり

団体名：フードバンクさやま

連絡先：連絡者氏名 安永 康枝 TEL：070-4440-2590

メール：foodbanksayama@gmail.com

【事業の目的・ねらい】

- ・食料を必要とする市民に対してすみやかに食料を適切に渡すことができるように、市民参加型の仕組みを考えること。SDGs 目標の12.「つくる責任 つかう責任」の達成に向けて、食品ロスの削減を考える機会とすること。

【活動内容】

- ・フードドライブ食料寄付の実施 19 か所の回収、周知活動
- ・支援団体への配送 配分調整
- ・支援団体の情報収集
- ・かさじぞうプロジェクト食料支援

【事業の成果】

- ・フードドライブの増設（8か所から 19 か所）
- ・県下一斉フードドライブ参加
- ・フードドライブに集まった寄付食品 265 キロ
（前年度 130 キロ）
- ・ファミリーマート 八千代工業 レジアスインプクトのフードドライブ引き受け元



【事業の課題】

- ・一時保管場所がない 大量の寄付品に対応できない
- ・食料品回収のボランティア不足
- ・運営体制の整備

【今後の事業展望】

- ・保管場所、運転資金の確保
- ・各種助成金の活用
- ・情報収集

【団体のPR】

- ・市民参加で持続可能な社会を上げたいです。
食べ物を大切にす生活、誰もが幸せな生活ができるよう市民の皆様のお力が必要です。

【事業7】

事業名：シンサヤマミュージーラル事業

団体名：新狭山北口商店会

連絡先：田口 博章 TEL：090-2247-1264

メール：kuishinbo1966@yahoo.co.jp

【事業の目的・ねらい】

・商店街の中にあるシャッターや壁を使ったアートの製作を通じて、商店主、地元住民、アーティストが主体的に活動へ参加し、まちづくりに対する当事者意識を醸成するとともに、「新狭山北口商店街＝何か楽しいことにチャレンジできる場所」というブランドイメージを確立する。

【活動内容】

令和3年7月 高良ビルの空店舗にて壁塗りワークショップを実施

令和3年9月 きむら布団店にシャッターにアートを製作

令和3年11月 バス停留所の壁にてワークショップを実施
(第3回シンサヤママーケットと同時開催)

令和4年2月 早船地所にシャッターアートを製作



【事業の成果】

・年間4件の事業を実施してきた中で、約80名の方が事業に参加。高良ビルの空き店舗は、事業後、地元美大生の創作活動の場として活用されており、地域に若い世代が集う拠点となった。シンサヤママーケットと同時開催した壁塗りワークショップには、特に子どもが大勢参加してくれたことで、その親世代も含めて、商店街で実施している様々な活動に興味をもっていただくきっかけを作ることができた。また、きむら布団店や早船地所といった店舗のシャッターのアートが増えたことによって、地域の方からも「まちの雰囲気明るくなった」とのお話を多数頂いている。



【事業の課題】

・事業費のほぼ全てを行政提案型協働事業の委託費から支出しており、継続実施する上でアーティストへの謝礼や画材等の消耗品費といった必要経費を捻出するための手段を確立していく必要があると思われる。



【今後の事業展望】

・新狭山北口商店街に限らず、周辺地域を盛り上げるためのメインコンテンツとして「シンサヤママーケット」「シンサヤマミュージーラル」を継続的に実施していく。また、上記の財源面での課題については、商店会費や店舗オーナーが必要経費を負担するような形で進めていきたいと考えている。

【団体のPR】

・設立は昭和47年、会員数60名。川越狭山工業団地内に所在する企業の従業員の生活を支える企業城下町として発展を遂げてきた。近年大手自動車メーカーの生産拠点集約や商店の後継者不足といった問題を抱えてきた中で、地域に新しい価値観を創造するべく、令和元年度から埼玉県の実業である「NEXT 商店街プロジェクト事業」に取り組んできた。同事業では商店会員、市内他地域の商業者、行政等様々な立場のプレーヤーが一体となって、「シンサヤママーケット」や「シンサヤマミュージーラル」といった事業を実施。結果、2021年に経済産業省が主催する「はばたく商店街30選」を、埼玉県内で初めて受賞するという快挙を達成した。

【事業8】

事業名：障がいのある方が教える「ボッチャ教室」

団体名：社会福祉法人茶の花福祉会

連絡先：連絡者氏名 堀口 和美 TEL：080-5966-6293

メール：taiju.ie@chanohana-fukushi.or.jp

【事業の目的・ねらい】

- ・パラリンピック正式種目であるボッチャ競技を通じた地域交流・スポーツ参加の場を提供する。事業開催にあたり、障がいを持つ方が企画から参加することで、地域の中での役割を担っていく。障害者理解の推進。

【活動内容】

- ・地域の方々にはパラリンピック正式種目であるボッチャ競技を知っていただくと共に地域交流・スポーツ参加の場としてボッチャ教室を開催する。
- ・障がいのある当事者が企画から関わり、当日スタッフとして役割を持って参加する。



【事業の成果】

- ・一般参加者の方で6つのチームに分かれリーグ戦を行い、後半2試合は、車椅子やランプ（竹や雨どいを利用）を使用し、当事者体験の要素を盛り込み実施。
- ・大樹の家入居者が企画から当日までの準備を行い、地域の中での役割を担うことが出来た。
- ・当日の司会進行、ルール説明は、リモート中継及び事前のビデオ撮りで実施しコロナ禍での開催を実現できた。
- ・30代から80代まで幅広い年齢層のボッチャ経験者、未経験者の方々にご参加いただき、同じチームで試合を行ったことで様々な交流が生まれた。

【事業の課題】

- ・8月、9月の教室が緊急事態宣言発令中で中止となったことに加え、コロナ禍での実施となり、「障がいのある方が教える」という部分がリモートでの間接的な方法になってしまった為、会場での交流、対戦を実現しなかった。

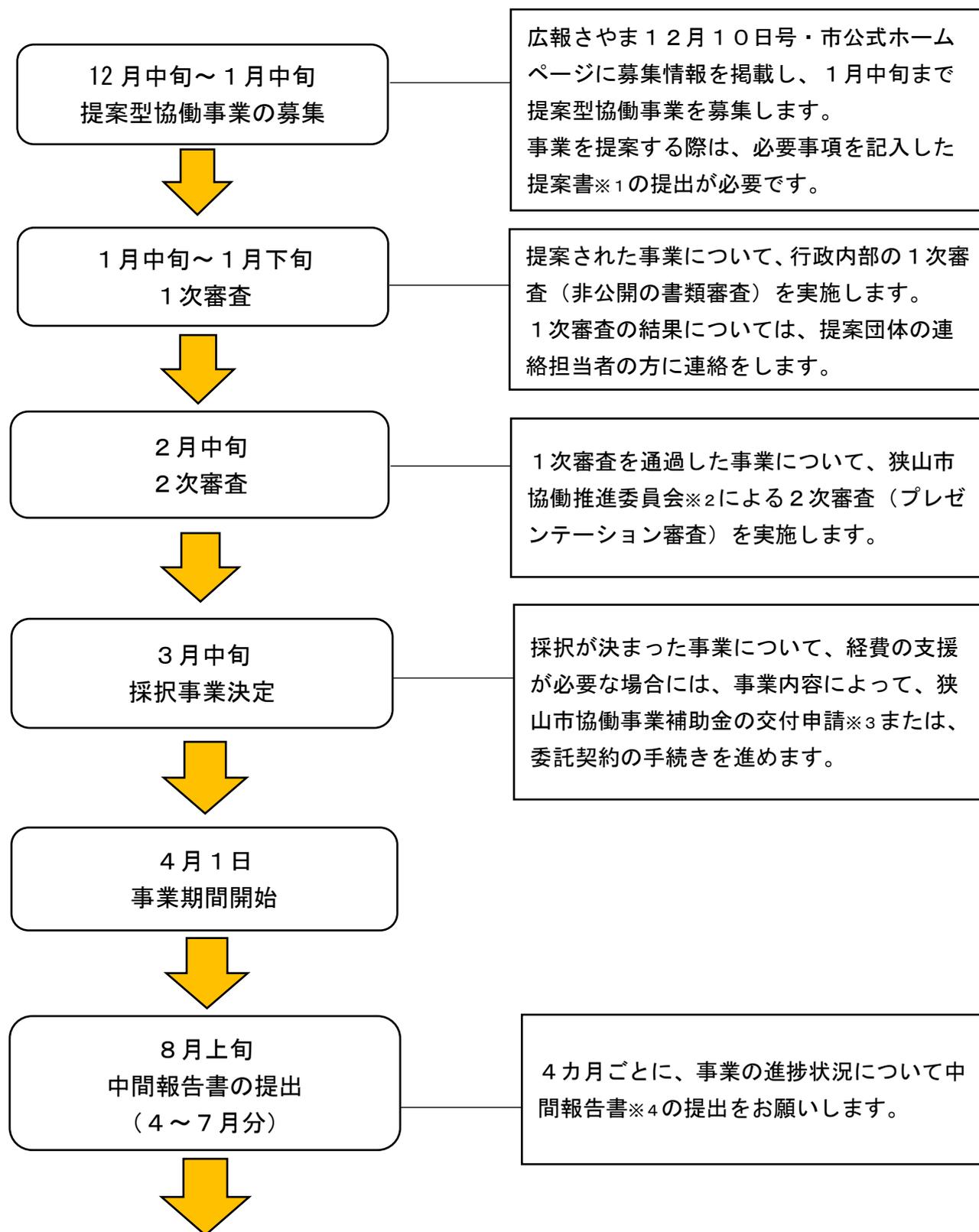
【今後の事業展望】

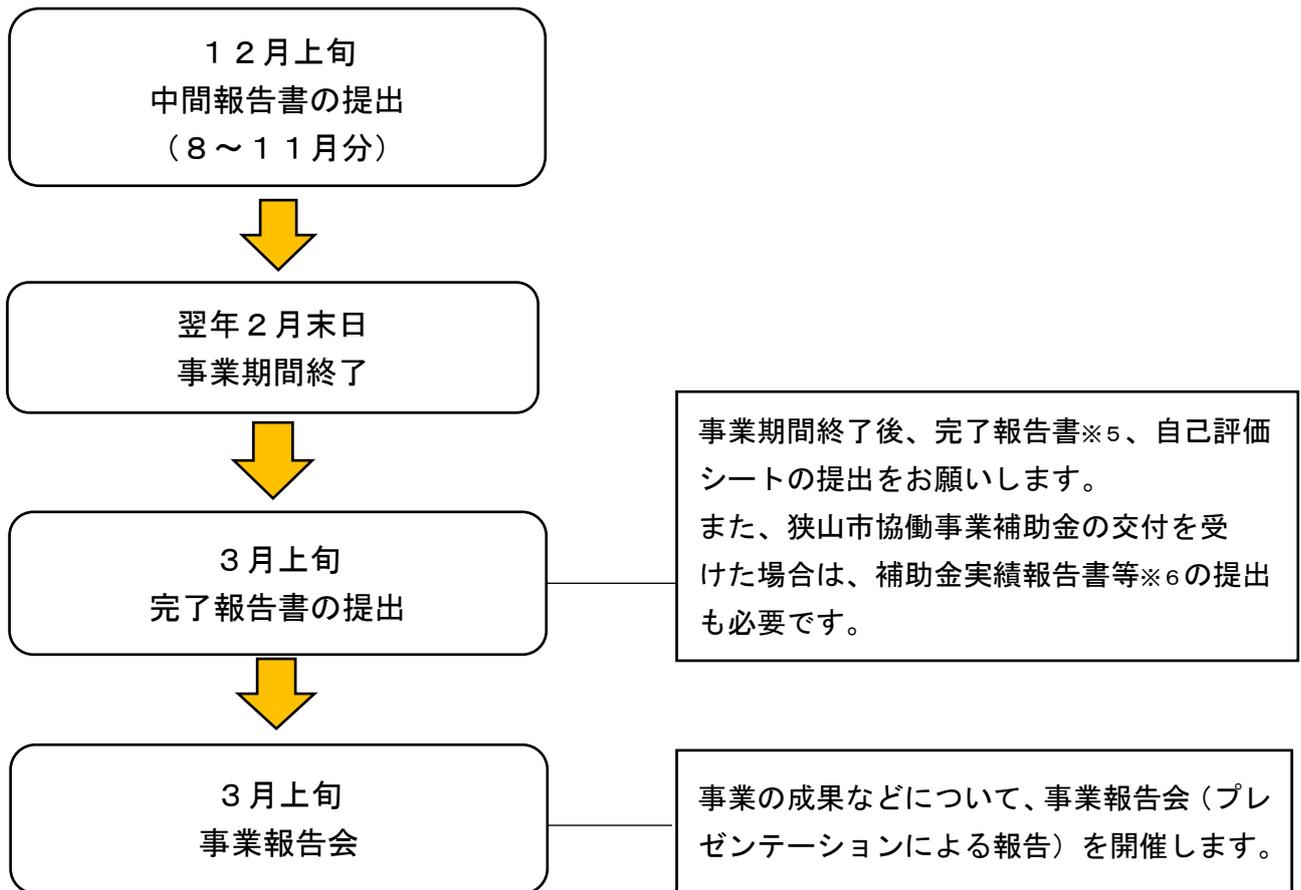
- ・小中学生を対象とした教室開催等、さらに幅広い年齢の方への働きかけ、ボッチャを通じた交流や障がい者理解促進、健康づくりに繋げていきたい。

【団体のPR】

- ・障がい者支援施設（生活介護59、入所55、短期入所5、相談支援事業、居宅介護）です。平成11年の開所以来年間を通して季節行事の開催や施設活動の中で、地域ボランティアさん、サークル、近隣小・中・高等学校・大学との交流を積極的に行ってきました。コロナ禍での制限が続きますが、地域との繋がりを広げていける様、活動・行事開催の工夫をしています。

協働事業提案制度(提案型協働事業)年間スケジュール



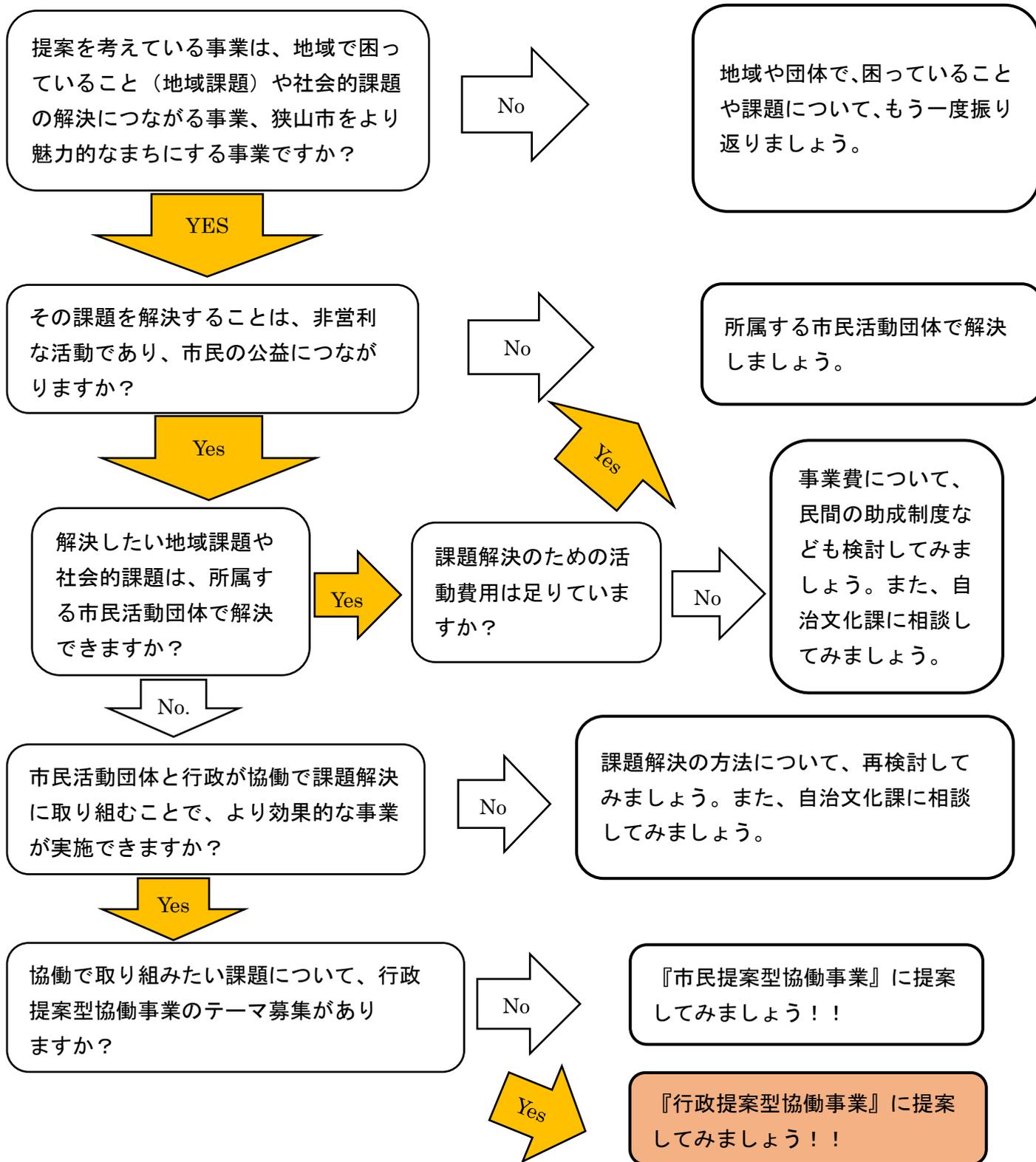


※新型コロナウイルスの感染拡大防止を鑑み、スケジュールの変更がある場合がございます。

- ※1 事業の提案には、①協働事業に関する提案書、②協働事業に関する企画書、③協働事業収支予算書、④協働事業実施スケジュール、⑤協働事業提案団体概要書の提出が必要です。
- ※2 協働推進委員会とは、協働を市民の主体的な参画により総合的かつ計画的に推進するため、市民（市民活動団体、市内企業関係など）及び市職員で構成する委員会です。
- ※3 狭山市協働事業補助金の交付申請には、①狭山市協働事業補助金交付申請書の提出が必要です。
- ※4 中間報告には、提案型協働事業実績報告書の提出が必要です。
- ※5 事業期間終了後の完了報告には、①狭山市協働事業完了報告、②狭山市協働事業収支決算書の提出が必要です。
- ※6 事業期間終了後の補助金の報告には、①狭山市協働事業補助金実績報告書、②狭山市協働事業補助金清算書の提出が必要です。

協働事業チェックシート

狭山市では、市民活動団体などとの協働事業を推進するため、協働事業提案制度を実施しています。提案型協働事業（市民提案型協働事業・行政提案型協働事業）を提案する前に、事業の適正についてチェックしましょう。



「さやマルシェ」の「みんなであつなろう@狭山」をご活用ください。

市民のみなさんの小さな気づきや望みは、多くの人とつながり、協働することで、大きな成果に変わります。「まちをもっと良くしたい」と願うみなさんの想いをカタチにし、大きな成果へと繋ぐため、地域ポータルサイト「さやマルシェ」内に新規コンテンツ「みんなであつなろう@さやま」があります。

狭山市の協働によるまちづくりに関するさまざまな情報をまとめた「みんなであつなろう@さやま」では、協働事業を実践している方の活動への想いやきっかけを発信しており、協働を始めるためのきっかけやヒントを得ることができる場となります。



「想いをカタチにするための協働のヒント集」も併せてご活用ください。

「みんなであつなろう@さやま」と併せて、「まちをもっと良くしたい」と願うみなさんの想いをカタチにするための「協働のヒント集」があります。

このヒント集では、

- ① 何かを始める前に知っておきたいこと
- ② 始めよう！実行までの4つのステップ
- ③ 活動中の団体取材してきました！

を見出しとして、何かを始める前に知っておきたい知識や想いをカタチにするための進め方などをイラスト付きで分かりやすく解説しております。

協働のヒント集は、さやマルシェ「みんなであつなろう@さやま」の中でご覧いただくことができます。また、上記QRコードより、ダウンロードも可能です。ぜひご覧いただき、ご活用ください。



◎過去3年分の提案型協働事業一覧

① 市民提案型協働事業

No	実施年度	事業名	団体名	担当課
1	令和2年度	トワイライトスティ事業	いりそ支え合いたっち	こども支援課
2		道にお絵かき！？大っきなところに描いてみよう♪ ～コロナなんかに負けないぞ！～ ※新型コロナウイルス感染症の影響により、 中止となりました。	Sayama Second Stage	協働自治推進課
3	令和元年度	犯罪被害者等支援事業	狭山市犯罪被害者・ 交通被害者等支援の会 (オリーブ)	交通防犯課
4		障害のある人もない人も楽しめるビリヤード教室	さやまビリヤード愛好会	障害者福祉課
5		産後ケアネットワーク事業	さやマンセ	保健センター
6		ボランティア体験発表会 ボランティアの活動・今 ささえあう ゆたかな 地域を目指して	ボランティアの止まり木	協働自治推進課
7		らーふてらこや LET' S ENJOY ENGLISH	(一社)生活支援事業所 らーふ	市民文化課
8	平成30年度	体験型防災学習	ガールスカウト埼玉県 第10団	危機管理課
9		犯罪被害者等支援事業	狭山市犯罪被害者・ 交通被害者等支援の会 (オリーブ)	交通防犯課
10		車椅子ビリヤード	狭山ビリヤード愛好会	障害者福祉課
11		産後ケアネットワーク事業	さやマンセ	保健センター

② 行政提案型協働事業

No	実施年度	事業名	団体名	担当課
1	令和2年度	狭山市版食のセーフティネットの 仕組みづくり事業	フードバンクさやま	福祉政策課
2	令和元年度	駅前発！楽しく学ぶ自分磨き講座	NPO 法人さやま生涯学習 をすすめる市民の会	社会教育課
3		狭山市防災マップ多言語化事業	Well-being Make	危機管理課
4		「協働」をより身近に！市民と市職員との ワークショップ研修	Sayama Second Stage	協働自治推進課 職員課
5	平成30年度	観光パンフレット作成事業	狭山ステキ発見の会	商業観光課
6		自主防災組織連絡協議会設置事業	NPO 法人 わが街さやま の防災ネットワーク	危機管理課
7		子育て世代参画によるさやまし魅力発信事業 「ママ発！さやまし」	さやマーチ	政策企画課
8		駅前発！楽しく学ぶ自分磨き講座	NPO 法人 さやま生涯 学習をすすめる市民の会	社会教育課



令和4年4月発行
発行元 狭山市市民部自治文化課
〒350-1380 埼玉県狭山市入間川1-23-5
TEL: 04-2953-1111 (内線2512)
FAX: 04-2954-6262
ホームページ: <https://www.city.sayama.saitama.jp/>

